

花巻ファーマー

丈夫で品質の良い花で「よろこばれる」会社を目指す



有限会社 岩手園芸 代表取締役
佐藤 巧 さん
(高木 54歳)

有限会社岩手園芸では、鉄骨・パイプハウス各10棟、露地60坪で年間約40品種の鉢花を栽培しています。

今の時期はカーネーションやサフィニア、ペチュニアがメイン。秋にはリンドウやシクラメン、ポインセチアなど、約5品種が育てられます。

「大事にしているのは鮮度。病気に強く、丈夫な花になるように環境を整えています」と話す代表取締役の佐藤巧さん。

鉢の底穴から水を吸わせる底面灌水と、ハウスの窓を自動で開閉するシステムを導入し、花にとって良い環境をつくり出しています。さらに、品種によってブレンドや肥料の割合を調整するなど、土づくりにこだわっています。

佐藤さんは、宮城県農業短大を卒業後、福島県いわき市



岩手園芸の「ニューギニア・インパチェンス」。花持ちが良いと評判です

の農園で2年間研修。昭和60年、父が経営する岩手園芸に入社しました。佐藤さんの代からの会社理念は「よろこばれる」。消費者だけでなく、従業員や付き合いのある業者など、関わる全ての人たちによるこぼれる会社を目指しています。

「品質の良さはもちろん、納期に合わせて開花時期をコントロールすることも大事」と佐藤さんは話します。

J Aいわて花巻鉢花生産部の部長も務める佐藤さん。花巻ブルーシリーズの鉢植リンドウ「いわて乙女」、花巻銀河ブルーを栽培するなど、新品种の導入にも意欲的です。

広げよう活動の輪

市民活動団体紹介

高齢者が和やかに過ごせる場所を
NPO 法人 **ゆう・ゆう・ゆう**

【問い合わせ】
NPO法人
ゆう・ゆう
理事長 佐藤 俊一 さん
(☎43-1050)

NPO 法人「ゆう・ゆう」は▼グループホームなごみ・なごみⅡ(東和町安俣)▼デイサービスセンターなごみ(同田瀬)▼なごみホームうきた(同浮田)の4カ所が高齢者向け介護サービスを展開。「利用者」が主役ということ念頭に置き、家庭的な雰囲気の中で生活を支援しています。

各施設では自宅にいる感覚で過ごしてほしいという思いから、時間や計画にとらわれない支援を実施。「今日は天気がいいからドライブに行こうか」「産直の催しを見に行こうか」と柔軟に一日のスケジュールを組んでいます。

利用者の様子は、月1回発行する広報紙で紹介。写真が多用された紙面は「親の元気な様子が分かる」と家族に好評だと言います。



遊びを通して体を動かしています



グループホームなごみ・なごみⅡの職員の皆さん

市民生活コーナー

固定電話が使用できなくなるという情報に注意！

■どんな相談があるの？

○「アナログ回線からデジタル回線に切り替わるので、今まで使用していた電話機が使えなくなる。電話機を取り替えていないのはお宅だけ」と言われ、電話機を購入するよう迫られた

○「インターネットを経由した電話サービスを開始

■注意することは？

○NTTでは、令和6年1月から従来の固定電話の回線をIP網に移行すると発表しています。移行に伴う切り替え手続きは

不要で、現在の電話機が使えるようになるということはありません

○訪問者が「NTTの○○」と名乗っていても実際には別会社の営業という場合があります。不審に思ったら、名刺を受け取り会社名と担当者名を確認しましょう

■困ったときは？

○新館市民生活総合相談センター(☎2421111内線259)へ

COLUMN:Health

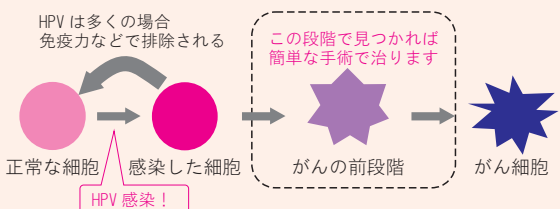
健康コラム

子宮頸がんってどんな病気？

●子宮がんは、子宮の入り口にできる「子宮頸がん」と奥にできる「子宮体がん」に分けられます。同じ子宮にできるがんでも原因や症状が全く違います。



●子宮頸がんは、性交渉によるHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が主な原因です。HPVに感染すると、多くは自然に排除されますが、感染した状態が続くと、がん細胞へと進んでいきます。



早い段階で感染を発見し治療を始めることで、治る可能性がぐっと高くなります。

●子宮頸がんは、初期にはほとんど症状がないため、自分で気が付くことができません。しかし、検診を受けることができます。

近年は20・30歳代で子宮頸がんにかかる女性が増えています。結婚や妊娠・出産、子育てを迎える大切な時期だからこそ、若いうちから子宮頸がん検診を受けて、がんから自分の体を守りたいですね。



【問い合わせ】健康づくり課(☎23-3121)

地域おこし協力隊

協力隊員になってみて思うこと
- スドウ栽培担当 瀬川 達矢 -

今年の2月に地元花巻にUターンをして地域おこし協力隊に着任し、早くも4カ月が過ぎようとしています。今思うと、よく転職する決断をしたなと思います。

以前は、病院で診療放射線技師という仕事をしていました。それが、今は大迫町にある葡萄が丘農業研究所という所でブドウ栽培の研修(修行?)中です。

人生の転機はいつ来るか分からないものと言いますか、自分で転機をつかまないと、いつまでたっても変化は起こりませんね。何かを捨てな



▲今年伸びてきた新しい枝に、違う品種の枝をつなぐ「高接ぎ」という作業の様子

いと次に進まないことは必ずあります。不安でも失敗を恐れず新しい世界に入っていくということも、時には必要だなと感じます。

私は、自分の手で一から何かを作りたいという思いから、農業の世界に足を踏み入れました。今後やっていきたいことは、地元の耕作放棄地などの再生による地域活性化と、ワイン用ブドウやブルーベリーなどの栽培です。

そして将来、地元ワイナリーを造るのが最終目標です。

興味のある人は、一緒にやってみませんか。